

旧国立競技場の炬火台の岩手県・福島県・川口市への貸出等について

日本スポーツ振興センター（JSC: JAPAN SPORT COUNCIL 理事長：大東 和美）が所有する旧国立競技場の炬火台（1964年東京大会の聖火台）は、2019年3月まで宮城県石巻市へ貸出し、同市において震災復興のシンボルとして展示・活用されています。

このたび、スポーツ庁の調整のもと、震災復興の更なる支援として、宮城県石巻市への貸出終了後、岩手県及び福島県に順次貸出し、県内の復興イベントや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運を盛り上げるためのイベントなどで、被災地がより一層元気になるよう展示・活用するとともに、当時製造された埼玉県川口市にも「里帰り」として貸出し、展示・活用することとなりましたのでお知らせします。

なお、炬火台は、最終的には新国立競技場の敷地内へ設置することとしています。

【貸出日程の概要】

宮城県石巻市	：	2014年12月	～	2019年3月
岩手県内	：	2019年5月頃	～	2019年7月中旬頃
福島県内	：	2019年7月中旬頃	～	2019年9月下旬頃
埼玉県川口市	：	2019年10月頃	～	2020年3月頃

（参考）旧国立競技場の炬火台について

1. 概要

- ・ 所有：JSC
- ・ 高さ：2.1m 最大直径：2.1m 重量：推定4t
- ・ 埼玉県川口市の川口内燃機铸造所が製造主体となり、名工・鈴木万之助が製造作業を実施したが、溶けた鉄を流し込む作業で鑄型が大破して失敗し、万之助は数日後に他界。その息子たちが引き継いで1958年に完成・設置された。

2. 現在の活用状況

平成26年12月より宮城県石巻市へ貸し出し。同市は、市総合運動公園に展示した上で、復興マラソン大会等のイベントで活用し、点火等も実施。貸出期間は、平成31年3月末まで。

3. 最終的な設置場所

新国立競技場の東側ゲートの正面に設置する予定。

（平成29年11月14日開催の「新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議」において確認された。）